

<1月のこよみ>

1日 元日  
 2日 初荷  
 5日 御用始め  
 7日 七草  
 11日 鏡開き  
 15日 成人の日  
 16日 やぶ入り  
 18日 家庭の日  
 20日 大寒

# ニワトリ

## 広報こすど

発行所 小須戸町役場 ☎ 3111  
 毎月1日発行 印刷 玉庭印刷所

人口のうごき

(55.12.1 現在)

男	5.110 (+1)
女	5.450 (-7)
計	10.560 (-6)
世帯数	2.449 (-2)

No. 94

昭和56年

# 1/1

# あけましておめでとございます

## 昭和56年 元旦



# 今年はトリ年

サル年が去ると次はトリ年。

トリ年は、十二支の十番目の「酉とり」にニワトリをあてはめたものですが、考えてみるとちょっとゆかいなのは、昔々酉の刻々といわれた時刻が今の午後六時ごろと、その前後約二時間で、どう考えても夜明けを告げるニワトリにはふさわしくないことです。

また「酉の方角々」というのは西の方だそうですが、ニワトリという何となく日の出る方向、つまり東の方向が似合うように思えるのですが……………。

それはともかく、ニワトリと人間とのつき合いはきわめて古く、インドでは紀元前一七〇〇年ごろにはすでに家畜化され、その後各地に広まったといわれていますが、日本には中国、朝鮮半島を経て伝わり、有名な天の岩戸の神話にニワトリが登場していることはよく知られています。

天照大神（あまてらすおほみかみ）が、岩戸にたてこもった時、ほかの神がみか困って常世とこよの長鳴鳥を鳴かせたりして、天照大神を岩戸から出そうとした話がそれです。

それにしてもニワトリは、昔は暁を告げる靈鳥として宗教的に用いられたり、また、ヨーロッパやアジア各地では闘鶏として娯楽用に飼われていたことが多く、どちらかというとなワトリが主役でした。もちろん、肉や卵も食べられていたようですが……………。

ところが今では、多くの人のとって卵が朝食に欠かせないものになり、メンドリ主役の時代になりました。とくに日本では、このところ卵とトリ肉が物価の優等生として歓迎されています。そのわりには、ニワトリは「集団生活」を強いられるようになってしまった、今はニワにニワトリの姿を見ることはまれになりました。かといってニワトリのいる動物園は少ないし、ニワトリの声をテレビやラジオでしか聞いたことのない子どもが増えているようで、ちょっとさみしい気がしますね。

ともあれ、よい年でありませうに。